

ご挨拶



ご高承のように昨年度は、日本工学アカデミーの二つの最重点項目を掲げました。一つは、新会費のもとで、魅力ある活動により会員の増強をはかり、日本工学アカデミーの財政基盤を確立すること、もう一つは、本年10月の第17回CAETS Convocationを立派にやり遂げることであります。

会員の増強については、関係者のご努力により徐々に成果をあげつつありますが、目標には未達であり、これからの追い込みに期待するところとなっています。最終的な目標としましては、米国工学アカデミーと見合う会員数1,000名を越すことが夢であります。皆様方の継続的なご支援をお願いする次第であります。

2007 CAETS TOKYO Convocationにつきましては、「環境と持続的成長」シンポジウムのプログラムが大略固まり、財政及び行事の計画をつめる段階となってきました。今や、内外からの多数の参加が成功の鍵を握っております。皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。ご高承のように、現在世界中で環境が最重要課題となっております。各国の立場に配慮しつつ、正鶴を得たCAETS声明文を作成し発信する事が課題となってきました。ポイントは現在増加を続けている炭酸ガスの放散を何時減少に転じて、地球として何時いくらに落ち着けるべきか、ということでもあります。

さて、本年度は上記に加えて、日本工学アカデ

ミー自身のイノベーションを加速せねばなりません。現在日本を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。国内では、安倍総理の提唱するイノベーション25、人材育成、規制緩和、三角合併によるM&Aなどがあります。世界では、ポストCOP3の政策立案、石油減耗の中で資源国家資本主義の台頭、円高の懸念などがあります。これらに対応する基本的手段は、技術力の強化と、産官学が技術を駆使できる管理能力を身につけグローバル自由主義市場経済に適応していくしかありません。非政府の立場にある日本工学アカデミーからの提言の使命が一層重要になってきていると思います。

本年度は、各委員会、部会の実行計画を進めますが、特に次の考え方を意識しつつ対応したいと思えます。

- ①日本工学アカデミーでなければ出来ない政策提言を活発に行う。
- ②国内他団体との交流と共同活動の見直しを行う。これまで進めてきた総合科学技術会議、日本学術会議、関連省庁、日本経団連会員企業との交流に加え、ハイテク中小企業、JSPS、JST、NEDOなどのファンディング・エージェンシーとの具体的共同活動を探索する。
- ③国際活動については、従来路線を強化延長する。更に技術経営についてIEEEなどとの国際交流を強化し、日本の技術経営が国際的に孤立化しないように支援する。

以上の事業活動については、日本工学アカデミーの財政の現状を考慮し、原則として独立採算で推進するように政策転換をしたいと思えます。財政強化が達成され次第、発展の基盤となる体制強化もはかりたいと考えております。

今年はこれらの理想に向かって着実に前進していきたいと思えますので、皆様方のご協力とご指導をお願い致します。

2007年5月17日
(社)日本工学アカデミー
会長 中原恒雄

2006年度事業報告

日本工学アカデミーの抱える諸問題の解決に向けての改革初年度としてスタートした2006年であった。すなわち、日本工学アカデミーの活動の活発化、存在意義の明確化を推進する、それを支えるための会員の増強がおおきな柱であった。この目的を達成するために、会費の見直し、会員選考方法の見直し、専門分野・分類の見直しに着手した。一方、各委員会、作業部会においてもそれぞれの立場で活発に活動し、成果を上げることが出来た。詳細は後述するが、工業製品に関わる技術倫理の欠如に起因する問題、安全・安心に関わる問題、今後の人類の存亡に関わる環境・エネルギーの問題など2006年も諸問題が続出した。これらに対して積極的に対応した。また国際的にも、充実した一年であった。

会員選考委員会は先述した会員増強を効率的に且つ、積極的に実行するために、分野分類見直し、選考方式見直しの二つの小委員会を設置し、前者は一応の結論を得、2007年度から適用することとなり、後者は従来5名だった推薦者を3名として、推薦時の効率を高めることとし、本年度から適用した。これらの結果、入会者は53名、実質増は23名となり、年度末会員数は606名で創設以来の最高となった。

企画委員会は定常的な審議の他に、今年度は改革案の更なる推進を目指して地域活動の強化、賛助会員の増強に対する具体案をタイミングよく策定するために、それぞれに担当を定めて活動を開始した。

政策委員会は昨年度に総合科学技術会議に提出した“迫り来る危機を克服するために”という提言の実装化を図るための意見聴取、談話サロンの開催を経て、持続的社會に向けて、人材の二つのタスクフォースを発足させ具体的な検討を開始した。

広報委員会は年報のアクティビティー・レポートへの改編、新スタイルの名簿の発行を実施し、ニュースについては予定どおり発行した。その他、改革の一環となるEAJの外部広報のあり方について

て検討した。

最後に国際委員会について報告する。2006年はEA-RTMの東京での開催、CAETS年次総会（ブラッセル）への出席、があった。また2007年10月の東京でのCAETS Convocationの準備を遺漏無く進めるために、組織委員会及び実行、プログラム、編集の各委員会が精力的に活動し、ほぼ予定どおりの進行状況である。その他、アセアン工学アカデミー主催のエネルギー国際会議への協力、第6回日米先端工学フォーラムへの参加者派遣、英国RAEとの交流準備、オーストラリアATSEの総会への会長出席など多国間、2国間交流も予定通り進行した。

作業部会、地区活動についても、それぞれ年初計画に沿って活発な事業が展開された。昨年度に引き続いて、“ものづくり”“安全・安心”“環境・エネルギー”“科学技術政策”といった諸問題に特化したテーマを取り上げ、講演会、談話サロンの形式で広くその検討結果を世に問うた。

1 総会・理事会・会員

1.1 総会

社団法人日本工学アカデミー第9回通常総会は下記により開催され、「定款の変更」「会費に関する総会決定事項の変更」「2005年度事業報告および決算報告」を承認し、「2006年度事業計画および収支予算」「役員を選任」を決定した。

日時 2006年5月18日（木）14:00～14:45

場所 虎ノ門パストラル 新館5階ローレル

当日出席正会員67名、表決委任正会員363名、合計430名

1.2 理事会

総会直後開催の第57回通常理事会において、互選により中原恒雄会長、三井恒夫副会長、伊東諒副会長、川崎雅弘副会長、神山新一副会長、柳田博明副会長および隈部英一専務理事を選出した。また西澤潤一前会長を名誉会長に、永野健名誉会

長を最高顧問に推挙した。さらに青山博之前副会長と國武豊喜前副会長は顧問に加わった。

理事会は例年のとおり毎奇数月、年6回開催され、会の運営にかかわる重要事項について審議の上決定した。本年度の主な事項は、総会議事の承認、正会員・客員会員・賛助会員の入会および退会の承認、会員選考要領の見直し、会員増強対策、委員長交代の承認、作業部会の新設・延長の承認などであった。

報告事項としては、理事の逝去および公職就任に伴う任期途中退任の報告、各委員会の報告、第10回EA-RTM開催報告、CAETS 2007 TOKYO準備状況に関する報告、各作業部会と各地区活動の報告ならびに他団体主催行事に対する協賛・後援依頼承諾の報告がなされた。

1.3 会員

- ・正会員：正会員数は年度当初583名、本年度の入会者53名、退会者16名、逝去された会員14名で、年度当初に比べ23名の増加となった。年度末会員数606名は、1996年度末の603名を超えて、創設以来最も多い正会員数となった。
- ・客員会員：客員会員数は31名で2名増。
- ・賛助会員：1社減、1社増で18社、106口となった。
- ・会員選考委員会：7月、11月、3月の3回開催し、53名の新会員を選考、理事会に提案した。年間の新会員数53名は、1989年度の64名に次ぐ2位に位置づけられる記録である。
- ・第4分野大矢暁委員の逝去に伴い、小澤良夫会員を選任した。
- ・池田俊宏幹事を主査に、分野分類見直し小委員会を設置し、従来の基盤分野系を7分野から8分野に増やして生命系を独立させると共に、新たに横断領域5分野を定め、2007年度入会者から適用することにした。

基盤分野系：第1分野 機械系

第2分野 情報・電気電子系

第3分野 化学・材料系

第4分野 建設系

第5分野 資源・エネルギー系

第6分野 物理系

第7分野 生命系

第8分野 経済・社会系

横断領域：A領域 生産・製造

B領域 環境

C領域 安全・福祉

D領域 ナノテクノロジー

E領域 教育・技術倫理

- ・持田侑宏幹事を主査に、会員の選考方式の見直し小委員会を設置し、見直し作業を開始した。これ迄の選考基準を維持しつつ、必要な推薦人数を5名から3名に適正化したが、さらに議論を深めアカデミーとして本来あるべき姿を継続して探求する。

事 項	正会員数	客員会員数	賛助会員
年度当初	583名	29名	18社
入 会	53	2	1社
退 会 *	16	0	1社
逝 去	14	0	-
年 度 末	606名	31名	18社

*年度末付退会者を含む

- ・会員選考委員長：伊東 諒、幹事：池田駿介、持田侑宏
第1分野主査：井上憲太、副主査：村上敬宜
委員：大山尚武、笠木伸英、木村文彦、西脇信彦、花岡正紀、早山 徹
第2分野主査：丸山瑛一、副主査：石原 直
委員：伊賀健一、小館香椎子、諏訪 基、中村道治、中村慶久、持田侑宏
第3分野主査：御園生 誠、副主査：田村昌三
委員：久保田正明、鯉沼秀臣、西郷和彦、瀬川幸一、松永 是、四ツ柳隆夫
第4分野主査：和田 章、副主査：池田駿介
委員：小澤良夫、五十殿侑弘、表 佑太郎、濱田政則、松尾友矩、故 大矢 暁
第5分野主査：村上正紀、副主査：鈴木雄一
委員：芦田 讓、武田邦彦、田辺博一、日野光元、富士原由雄、松宮 徹
第6分野主査：西原英晃、副主査：山崎禎昭
委員：今井秀孝、桑原 裕、高山和喜、宅間正夫
分野分類見直し小委員会主査：池田駿介
委員：石原 直、井上憲太、鈴木雄一、西原英晃、御園生 誠
推薦方式見直し小委員会主査：持田侑宏
委員：田村昌三、早山 徹、富士原由雄、山崎禎昭、和田 章

2 個別事業

2.1 委員会

(1) 企画委員会

例年通り、当該年度の事業報告案、決算案、次年度の事業計画案、予算案の審議を行った。本年度は今年より実施された、会費の改定に続くアカデミー活動改革の定着を図るための方策の更なる充実をねらって、賛助会員の増強計画、地域活動の強化を具体化すべく担当を明確にすることを検討し理事会に報告した。その他、メンター登録制度の採用についても提案があったが、具体化することは出来なかった。

・企画委員長：川崎雅弘

副委員長：(1月より) 持田侑宏

委員：飯塚幸三、伊澤達夫、今村 努、
岡田雅年、城水元次郎、種市 健、
鳥井弘之、堀 幸夫、御園生 誠

(2) 政策委員会

前年度末に総合科学技術会議に提出した「迫り来る危機を克服するために」と言う提言を実装化するために、上記会議・議員への説明、アカデミー会員へのアンケート実施、談話サロンの場における意見聴取などの活動を精力的に実施した。これらの活動結果を踏まえて、「持続的発展可能性TF」と「人材TF」の二つを発足させ具体的な検討を開始した。

・政策委員長：丹羽富士雄、副委員長：鈴木 浩

委員：有信睦弘、有本建男、石井吉徳、
井上孝太郎、大来雄二、柏木 寛、
川崎雅弘、小林信一、諏訪 基、
長島 昭、西野文雄、久田安夫、
平澤 洽、堀内和夫、御園生 誠、
山田敏之

アドバイザーグループ：飯塚幸三、市川惇信、
今井兼一郎、内田盛也、大橋秀雄、
末松安晴、富浦 梓、吉川弘之

(3) 広報委員会

EAJ年報をアクティビティ・レポートに改編し、活動報告を主体にした。そのねらいは発行目的の明確化、構成の簡素化を行って、より親しみやすいものにするのであった。また新名簿の発行に当たって縦型に形態を改め、個人

情報の保護をも考慮し、会員各位からのアンケートを尊重した。EAJ NEWSについては例年通り6回発行し、本年度はエネルギーをテーマに紙上フォーラムを連載した。また、EAJ Informationは4冊刊行した。(P.8に印刷物リスト)

・広報委員長：小林敏雄、副委員長：山崎弘郎
委員：阿部栄一、伊藤 叡、上野晴樹、
河村壮一、小館香椎子、田中正人、
橋本弘之、早山 徹、藤嶋 昭

(4) 国際委員会

*非会員

2006年度はEA-RTMにとって第10回の節目となる会議であったので精力的に準備をし、多数の参加者によるシンポジウムも成功裏に終了し、さらに10年の活動を記録した小冊子を発行し、さらなる発展を再確認した。一方2007年10月に東京にて開催される、CAETS Convocationの準備に精力的に取り組んだ。また、ベルギーで開催されたCAETS年次総会にも参加、国際組織との連携強化、メンバー国の勧誘活動にも意を注いだ。その他、AAET主催の国際会議、JAFoEへの参加者派遣、日英連携活動の下打ち合わせ、オーストラリア・アカデミー総会への出席と言った2国間協力も積極的に行った。

・国際委員長：(1月より) 飯塚幸三

(11月まで) 故 柳田博明

副委員長：渡辺千仞

委員：石原 直、上野晴樹、児玉文雄、
佐伯とも子、齊藤忠夫、鈴木 浩、
田辺孝二、中原恒雄、萩原一郎、
柳父 悟、山崎弘郎、山田 肇、
依田直也

特別顧問：植之原道行、岡村總吾、永野 健

専門委員：*田中義敏

国際協力委員：相磯秀夫、秋元勇巳、生駒俊明、

井村 徹、岩佐義朗、木下祝郎、木村好次、
桑原 裕、佐波正一、嶋津孝之、杉田 清、
高柳誠一、高山和喜、武田康嗣、多田邦雄、
富浦 梓、西野文雄、野村東太、久田安夫、
三井恒夫、山田敏之、鷺見弘一

JAFoE-TG主査：石原 直

委員：井口泰孝、伊澤達夫、河村壮一

2007 CAETS Convocation 組織委員会

- ・委員長：中原恒雄、副委員長：飯塚幸三、三井恒夫
委員：井上憲太、今井秀孝、今村 努、
内山洋司、小川克郎、*神本正行、
齋藤武雄、種市 健、西澤潤一、
*松野 太郎
- ・実行委員長：飯塚幸三
委員：*伊藤純雄、今井秀孝、今村 努、
種市 健
- ・プログラム委員長：三井恒夫
委員：井上憲太、内山洋司、小川克郎、
*神本正行、*松野太郎
- ・編集委員長：*神本正行
委員：*伊藤純雄、鈴木 浩、*三原真一

2.2 作業部会

(1) 北海道・東北地区における工学教育の新たな取り組み *非会員

地区の特色を活かした新たな工学教育について調査研究を行うため、地区講演会と連動して、北海道大学、東北大学、会津大学および秋田大学で作業部会を開催した。

- ・主査：井口泰孝
メンバー：井小萩利明、猪岡 光、神山新一、
岸浪建史、*小山清人、庄子哲雄、
角山茂章、新岡 嵩、船崎健一、
吉村 昇

(2) 安全知の連合 *非会員

本年度は、安全に関連する国内学協会の委員を交えた委員会を開催し、昨年度に続いて公開の場として第2回安全工学フォーラム「人間とロボットとの共存・共生に向けて」を130名の参加で開催（2007.2.1）した。また第154回談話サロン「ガス給湯器の事故から学ぶ」を開催（2006.11.16）した。次年度以降は新作業部会を設置して継続した活動を行う。

- ・部会長：向殿政男、副部会長：*新井 充、柴田 碧
幹事：*池田博康、*吉村健志
メンバー：*上原陽一、*江藤 肇、*大久保堯夫、
*大鳥靖樹、*大橋智樹、*片田敏孝、
*小松原明哲、*菅原進一、杉本 旭、
住田健二、*高田毅士、*高橋 聖、
*高橋雄司、*田中健次、*谷口正土、

田村昌三、*津久井一平、*鳥居塚 崇、
中島恭一、*中村英夫、*長岡 栄、
*能島暢呂、*花安繁郎、平尾裕司、
*藤家美奈子、*蓬原弘一、堀内和夫、
*松岡 猛、松本 陽、*諸星征夫、
*吉村 誠一

(3) 環境・エネルギー研究会 *非会員

研究会を2回開催（2006.7.26、2007.1.17）した。公開シンポジウム「環境・エネルギー・農林業の本質を考える」を京都大学百周年時計台記念ホールにて210名の参加で開催（2007.3.21）した。次年度まで延長し、第3年度にて総括を行う。

- ・代表：芦田 讓

メンバー：*青柳 雅、秋元勇巳、秋山 守、
*朝倉繁明、渥美和彦、天野 治、
*安藤 満、*飯島正樹、石井吉徳、
内田盛也、内山洋司、*大久保泰邦、
*大塚俊道、*大原敏廣、小川克郎、
川崎雅弘、*楠見晴重、*國井仁彦、
*久留島守広、*小西尚俊、合志陽一、
*薩美七朗、*下浦一宏、田井中 彰、
武田邦彦、*田中荘一、*佃 榮吉、
徳田君代、久田安夫、*船岡正光、
松井一秋、松井三郎、*松岡俊文、
*三ヶ田 均、三井恒夫、*宮崎 緑、
武藤成生、森田昌敏、*六川修一

(4) 明るい工学

中部地区会員のアンケート調査の結果から4件の講演会テーマを選定し、地区活動と連動して講演会を2回開催した。

- ・部会長：武田邦彦

メンバー：石丸典生、後藤俊夫

(5) 21世紀型ものづくりと社会・若年者啓発

わが国の「ものづくり」の低迷や空洞化、ものづくり後継者の継承難などを契機に「もの」や「ものづくり」のあるべき姿を根源的に再検討すべき時が到来しているという認識のもと、今年度は6回の部会を開催した。2年間の成果報告を纏めたので、報告書の出版と談話サロンの開催を2007年度に実施する。これらを更に深化して検討すべく新部会の設置を検討する。

- ・主査：野村東太、幹事：小島俊雄

メンバー：飯塚幸三、伊東 誼、岩田一明、
木内 学

(6) ものづくりと工学教育

熊本、大分地区において地区に密着した企業と大学の協調による地域発展の基盤づくりを狙って、3回の部会において討議を重ねた。また広く意見交換をすることを期待して講演会を2回開催（2006.4.15、2006.9.9）し、成果をあげることができた。2年間の成果報告を纏めたので、報告書の出版を2007年度に実施する。

・主査：古崎新太郎

メンバー：井上雅弘、尾崎龍夫、加藤昭夫、
崎元達郎、谷口 功、中塩文行、
羽野 忠、原田耕介

(7) 科学技術戦略フォーラム *非会員

科学技術政策の理念、戦略について4回部会を開催した。公開シンポジウム「エネルギー・環境と人類の未来—日本の脱石油戦略を考える」を日本学術会議講堂にて350名の参加で開

催（2006.5.26）した。もったいない学会講演会「高く乏しい石油時代、日本はどう備える」の開催（2006.11.29）を支援した。8月には「もったいない学会」の設立と学会ミニシンポジウムを支援した。

・代表：石井吉徳

メンバー：芦田 譲、内田盛也、岸 輝雄、
隈部英一、*三浦宏一

オブザーバー：*池田富士太、*柳川隆之

(8) CAETS

6月にベルギーで開催されたCAETS年次総会に向けて、EAJからの報告を取り纏めるとともに、CAETS 2007 TOKYOのPR資料を作成した。

・CAETS作業部会主査：飯塚幸三

委員：川崎雅弘、岸 輝雄、鈴木 浩、
中原恒雄、丹羽富士雄、畑 良輔、
持田侑宏、安井 至、渡辺千仞



第10回EA-RTM



第152回談話サロン



第2回安全工学フォーラム

2.3 地区活動

(1) 北海道・東北地区

- 2006.9.1 地区講演会 (北海道大学)
「北海道における製造等の展開と工学教育への期待」 川田武司 氏
- 2006.11.24 地区講演・見学会 (東北大学)
「液晶ディスプレイ開発の経緯と将来展望」 内田龍男 氏
- 2007.2.2 地区講演会 (会津大学)
「水力100年の歩みと21世紀の共生的エネルギー」 角江俊昭 氏
- 2007.3.26 地区講演会 (秋田大学)
「北海道・東北地区における工学教育について」 佐藤正明 氏

(2) 中部地区

- 2006.6.20 地区講演会 (名古屋大学)
「自然に学ぶ原子力」 藤家洋一 氏
- 2006.11.29 地区講演会 (愛知厚生年金会館)
「長寿医療と工学—アルツハイマー病の克服に向けて」 田平 武 氏

(3) 関西地区

- 2006.6.28 地区講演・見学会 (大阪大学)
「21世紀COE『原子論的生産技術の創出拠点』を訪ねて」
講演：豊田政男、遠藤勝義、山内和人、山村和也、安武 潔、馬越佑吉 各氏
会員交流会 (2006.9.8 オムロン、2006.12.6 大阪ガス、2007.2.23 三菱電機)

(4) 九州・近隣地区

- 2006.4.8 地区講演会 (福岡リーセントホテル)
「我が国の先端技術の保全方策」 楠田哲也 氏
- 2006.11.16 地区講演会 (博多グリーンホテル2)
「私とMOT—成功例と失敗例—」 山之内秀一郎 氏



北海道・東北地区



中部地区



関西地区



九州・近隣地区

3 事務局

(1) 講演会・談話サロン・シンポジウム

総会特別講演 (東京・虎ノ門パストラル)

2006.5.18 「最近の防災研究—防災科学技術研究所の活動から—」 片山恒雄 氏
学術会議ほかとの共催による公開シンポジウム (日本学術会議講堂)

2006.5.26 「エネルギー・環境と人類の未来—日本の脱石油戦略を考える—」
講演：塩沢文朗、石井吉徳、芦田 讓、秋元勇巳、内田盛也 各氏

第150回談話サロン (弘済会館) 国際委員会

2006.6.30 「Opportunities for Synergy between Science and Engineering Research
in Japan and UK」 マイケル・ノートン 氏

第151回談話サロン (弘済会館)

2006.7.5 「地球シミュレータと未来社会革命」 佐藤哲也 氏

第152回談話サロン (弘済会館) 政策委員会

2006.7.27 「迫り来る危機を克服するために」
講演：丹羽富士雄、石井吉徳、久田安夫、大矢 暁、長島 昭、鈴木 浩 各氏

第153回談話サロン (弘済会館) 科学技術戦略フォーラム、環境・エネルギー研究会

2006.9.22 「最後の石油争奪戦」
講演：石井吉徳、芦田 讓 両氏

東アジア工学アカデミー円卓会議併設シンポジウム (学士会館)

2006.10.26-27 「インスティテューショナルイノベーション」

第154回談話サロン (弘済会館) 安全知の連合

2006.11.16 「製品の安全に向けて取り組むべき課題とは
—ガス給湯器の事故から学ぶ事故防止の体制と安全技術」
講演：中村雅人、諸星征夫 両氏

もったいない学会講演会 (東京大学工学部2号館) 科学技術戦略フォーラム

2006.11.29 「高く乏しい石油時代、日本はどう備える」
講演：石井吉徳、Prof. Kjell Aleklett、Dr. Bruce Robinson 各氏

第2回安全工学フォーラム (弘済会館) 安全知の連合

2007.2.1 「人間とロボットとの共存・共生に向けて—安全確保のアプローチ—」
講演：杉本 旭、太田康裕、三谷宏一、日浦亮太、下笹洋一、
上田佑介、山田陽滋 各氏

第155回談話サロン (弘済会館)

2007.2.6 「福祉用具を巡る二つの潮流」 山内 繁 氏

環境・エネルギー・農林業公開シンポジウム (京都大学百周年時計台記念ホール)

2007.3.21 「環境・エネルギー・農林業の本質を考える」

(2) 印刷物

EAJ Information No.130 第9回通常総会特別講演
「最近の防災研究」 片山恒雄 氏

EAJ Information No.131 第151回談話サロン
「地球シミュレータと未来社会革命」 佐藤哲也 氏

EAJ Information No.132 第153回談話サロン
「最後の石油争奪戦」 石井吉徳 氏、芦田 讓 氏

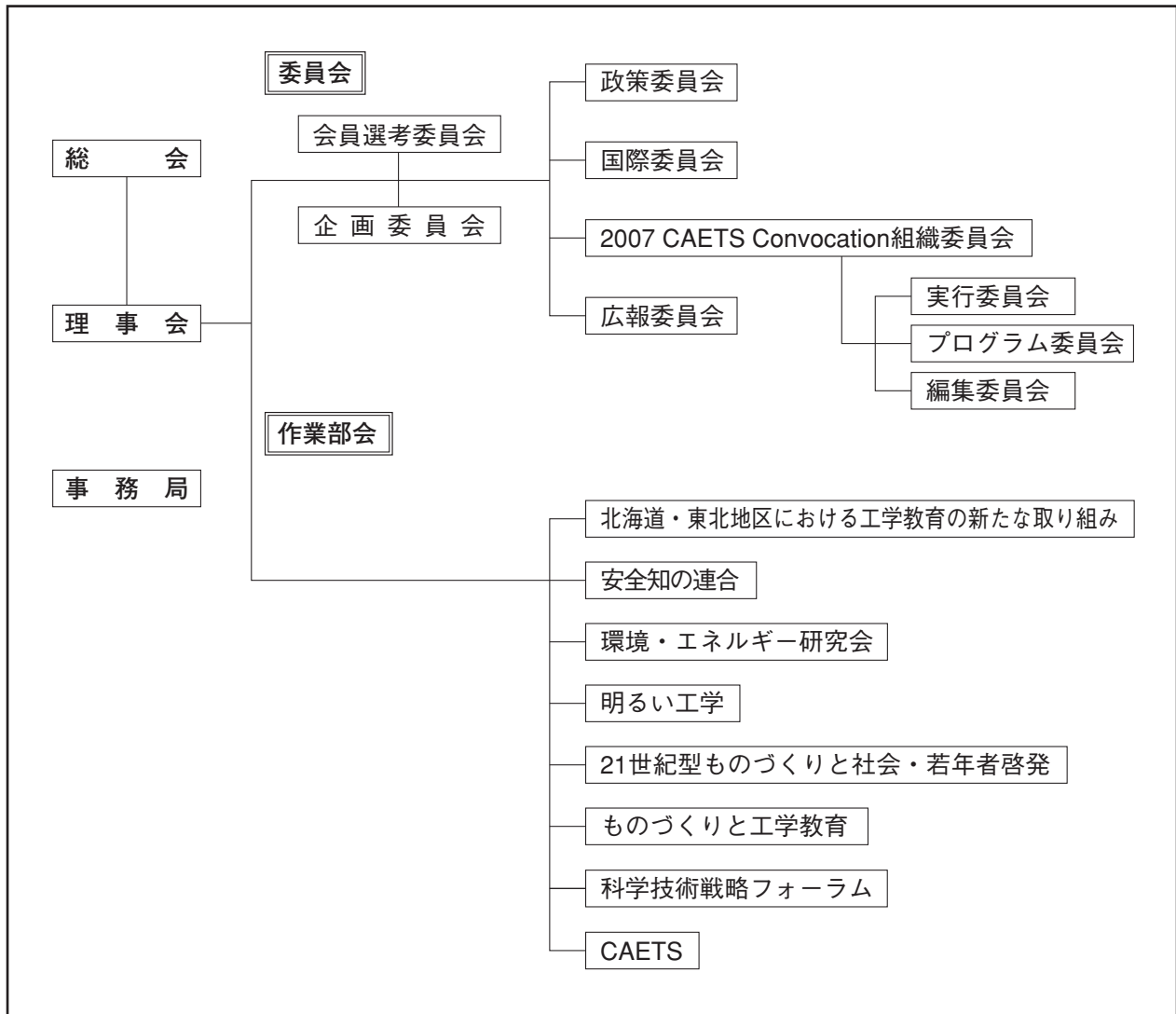
EAJ Information No.133 第154回談話サロン／安全知の連合作業部会委員会
「製品の安全確保を考える」 中村雅人 氏、諸星征夫 氏

組織・運営

社団法人日本工学アカデミーの諸事業の推進は、下図に示す委員会など常置組織と時宜に即したテーマによる作業部会を通じて行われている。また、首都圏以外での地区活動は地区担当理事を中心に北海道・東北、中部、関西、九州・近隣地区の4地区組織で推進される。

2006年度は作業部会制に移行して5年目になる。原則2年で活動を終了するところ、理事会の承認を得て、「安全知の連合」は3年目の活動を実施した。

「環境・エネルギー研究会」は2年の活動を踏まえ、さらに1年延長することが承認されている。



2006年度 役員名簿

<役員>

理事・会長	中原 恒雄				
理事・副会長	伊東 誼	神山 新一	川崎 雅弘	三井 恒夫	
	故 柳田 博明 (2006年11月20日逝去)				
理 事	芦田 讓	東 實	井口 泰孝	伊澤 達夫	
	猪岡 光	岩田 一明	岡田 雅年	河合 素直	
	小林 敏雄	後藤 俊夫	佐藤 繁	武田 邦彦	
	種市 健	角山 茂章	西原 英晃	丹羽 富士雄	
	野村 東太	原 邦彦	古崎 新太郎	松藤 泰典	
	御園生 誠	村上 正紀	安田 浩	柳父 悟	
	相澤 益男 (2006年12月27日辞任)				
専務理事	隈部 英一				
監 事	合志 陽一	山田 敏之			

<名誉会長・顧問>

最高顧問	岡村 總吾	永野 健			
名誉会長	西澤 潤一				
顧 問	青山 博之	國武 豊喜	平山 博	堀 幸夫	

賛助会員

(入会順)

- 1 日本電気株式会社
- 2 住友電気工業株式会社
- 3 富士通株式会社
- 4 トヨタ自動車株式会社
- 5 大成建設株式会社
- 6 鹿島建設株式会社
- 7 ソニー株式会社
- 8 三菱重工業株式会社
- 9 株式会社日立製作所
- 10 三菱電機株式会社
- 11 東日本旅客鉄道株式会社
- 12 日本電信電話株式会社
- 13 株式会社東芝
- 14 三菱マテリアル株式会社
- 15 株式会社NTTデータ
- 16 株式会社NTTドコモ
- 17 日産自動車株式会社
- 18 株式会社デンソー

以上18社

2006年度会計報告

正会員会費規定を改定した初年度であるということと、内部留保の削減実施という、いふなれば新たな取り組みであった2006年度の会計報告をする。

収入については、個人会員の純増50名、賛助会費の口数増加を25口と想定して予算を立てていたが、個人会員の増加は23名で当アカデミーとしては最大の人数となったが、新制度による会費の減、ご逝去会員が多かったことなどにより、予算対比84万円のマイナス、賛助会員の数は1社減、1社増で変動は無かったものの口数が一口減で増加が無かったので予算対比480万円のマイナスとなった。

その他、出版物収入を含む雑収入が24万円、退職金取り崩しが319万円あり、当期収入合計では予算対比221万円のマイナスとなった。

支出に関しては、委員会活動は、開催時間の見直しその他効率的な運営をお願いしたことにより

予算を50万円下回り、作業部会関係でも委員会と同様の運営をお願いしたこと、部会によっては関係者のご努力による経費節減があったこと、および予定した新部会の立ち上げが無かったことにより予算を179万円下回った。

広報出版費関係ではインフォメーションの発行部数が予定を下回ったこと及び簡易印刷を採用したことにより予算を下回ったこと、その他予定した外部広報用の出版がなかったことにより450万円予算を下回った。

関係者のご努力があり、それ以外の事業費で228万円、管理費で184万円の節減がはかられ、予備費と退職金給付差異の103万円を加えて、最終決算では当期支出合計で予算に対して1,195万円のマイナスとなった。

その結果、当期収支差額は予算に対して974万円のプラスとなり、結局、次期繰越額は4,654万円となった。



CAETS 2007 TOKYO

国際工学アカデミー連合第17回大会

Environment and Sustainable Growth
環境と持続的成長

会期 2007年10月23日(火) - 25日(木)

会場 京王プラザホテル東京 (エミネンス)

主催 社団法人 日本工学アカデミー

詳細情報およびお申込み

<http://www.congre.co.jp/caets2007tokyo/>

社団法人日本工学アカデミー設立趣意書

1997年 4月23日

わが国の工学及び技術の基盤の確立と拡大強化を図り、先見性、創造性豊かな工学及び技術の創出を推進することは、わが国の発展の為ばかりでなく、世界人類の将来にとっても極めて重要である。従来わが国は応用技術、生産技術の面で革新的な展開を行うことにより、経済大国と呼ばれるまで成長したが、その後さらに創造性豊かな工学及び科学技術の推進や、これまで貢献の少なかった基礎研究の面における指導的役割も期待されるようになった。

1987年、大学・官公庁・民間において、工学の研究、技術開発、産業の振興等に顕著に貢献した優れた見識を持つ指導的立場の人々が上記の様な問題意識の下に、その学問分野や産業グループを越えて相集い、日本工学アカデミーを任意団体として設立した。その目的は必要に応じて独自の提言を行うことにより、わが国の科学技術全体の発展に寄与し、さらに諸外国のアカデミーとの交流を通して国際協力を推進することであった。

その後10年間にわたり、この日本工学アカデミーは委員会・専門部会等を編成して関連する問題について調査審議を行うと共に時宜に適った提言等を実施してきた。又、国際的に関心のある問題について、世界的権威者を招請して、国際シンポジウムを開催してきた。1990年には、海外各国の同種団体の連合体である国際工学アカデミー連合 (International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences—CAETS) へ加入を認められ、その活動に積極的に参加し国際交流を図ってきた。その結果、わが国の工学技術分野を代表する組織として、国際工学アカデミー連合加入の各国から高く評価される様になってきている。

この時期に当たり、日本工学アカデミーを任意団体から改組し社団法人とすることにより、一層その活動を推進したいと考えるに至った。その理由は、1. 国際協力の活発化 2. 国内活動の強化 3. 普及啓発活動の推進 の三つである。

1. 国際協力の活発化

国際工学アカデミー連合 (CAETS) のみならず、広く海外の各国、特にアジア各国でも、工学アカデミーの設立の気運があり、これらとの相互連携においても、日本工学アカデミーの立場が強化されることが望ましい。国際的にも日本工学アカデミーの活動が評価されるに伴い、これらの活動を円滑にする為、その活動の社会的な認知及び公共性を明確な立場として捉えることがより効率的と判断される様になって来ている。

2. 国内活動の強化

一昨年11月には、各省庁の枠を越えた議員立法によって科学技術基本法が成立し、内閣総理大臣の諮問を受けて、科学技術会議で策定された科学技術基本計画は昨年7月2日付で閣議決定された。政府は科学技術創造立国を基本政策とし、科学技術振興の為の種々の新施策も一部実行に移されつつあるが、科学技術基本法の基本的考え方は、日本工学アカデミーの設立の趣旨と全く合致する。日本工学アカデミーは、これら諸施策の最適な計画と実行を図る為、関係者の利害を超越して、国益のための積極的な提言活動等を強化する。

3. 普及啓発活動の推進

最近の社会状況として、青少年の理工学離れに警鐘が鳴らされており、青少年や一般国民に対して、科学技術とその経済社会への寄与について、その重要性を周知啓発する必要がある。このような背景の下に日本工学アカデミーは、国内外で公式に認知された団体として所期の目的を更に拡大して、普及活動も含めた公益活動を効率よく、効果的に実行する。

以上の趣旨により、任意団体である日本工学アカデミーを発展的に改組し、社団法人日本工学アカデミーを設立しようとするものである。

以 上